



学 会 通 信

第 70 号

2014 年 12 月 6 日発行

## 目次

2014 年度 第 21 回日本教育メディア学会年次大会お礼 .....	2
第 1 回研究会の報告 .....	4
企画委員会ワークショップの報告 .....	5
編集委員会からのお知らせ .....	6
編集委員会・企画委員会の合同ワークショップのお知らせ（最終報） .....	6
第 2 回研究会のお知らせと発表の募集 .....	8
第 7 期 第 13 回理事会（定例）議事録 .....	9
定例総会議事録 .....	11
学会費納入のお願い、入会者・退会者 .....	14

## 2014 年度 第 21 回日本教育メディア学会年次大会お礼

年次大会実行委員長 村井万寿夫（金沢星稜大学）

第21回日本教育メディア学会年次大会は、10月11日（土）、12日（日）の両日、北陸・金沢にしてはめずらしく好天に恵まれ、多くの方に参加いただき、成功裏のうちに終了いたしました。

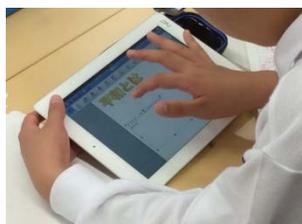
多くの方に参加いただいたので、初日の受付時にはスムーズな対応ができず、ご迷惑をおかけしたことを思います。申し訳ありませんでした。しかしながら、おかげさまで2日間の受付記録による参加者数は180名（実行委員及び学生アルバイトを含む実人数）を超えました。本当にありがとうございました。

今回の学会通信でお礼に係る紙幅をいただいたので、2日間の年次大会を簡単に振り返り、参加いただけなかった会員向けの報告の意味も込めたいと思います。

### 大会1日目

午前は、今回の年次大会の目玉としての「公開授業」と、その振り返りが行われました。本学至近にある金沢市立小坂小学校6年3組の児童31名と担任山口眞希教諭に会場である本学に来ていただき、国語の授業（単元名「自分の考えを明確に伝えよう～「平和」について考える～」）を参加者の目の前でしていただきました。

自分が考える「平和」について友達にプレゼンするため、考えの根拠となる資料（画面）を作成するという学習でした。一人一台のタブレット端末を用いて課題を解決していく学習計画を立てて展開する単元計画において、本時は、自分なりの見通しを持ち、プレゼンに説得力があるように「画面作成」「助言」「練習」「原稿手直し」の学習を児童主体で進めていきました。



〔画面の作成〕



〔画面の助言〕



〔プレゼンの練習〕



〔原稿の手直し〕

授業振り返りは、中川一史先生（放送大学）の司会のもと、佐藤幸江先生（金沢星稜大学）とともに、タブレット端末活用や協働学習について山口眞希先生に聞きながら深めていきました。



（司会：中川先生）



（聞き手：佐藤先生）



（会場：参加者）



（授業者：山口先生）

今回の公開授業の意図を端的に表現するならば、一人一台環境下における新たな授業デザインの探究（提案）です。本単元は「平和」をキーワードに学級の児童が共通の課題で学習を進めてきています。そして、タブレット端末を用いて自分の考えを画面（プレゼン画面）で表します。この学習を『一斉学習』とするならば、その過程の中に『個別学習』があったり『協働学習』があったりします。この3つの学習が本時で見事に具現化されていました。これはタブレット端末が一人一台環境下であればこそ実現できる授業デザインであるとも言えます。

午後は、27件の一般研究発表が5会場で行われました。発表いただいた方においては質疑を含め15分間という持ち時間にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。分科会の運営をいただいた座長の方にもお礼を申し上げます。

初日の最後のプログラムは、シンポジウムⅠ『教育の情報化』が行われました。ご登壇いただいた豊嶋基暢課長（文部科学省生涯学習政策局情報教育課）、鈴木克明会長（学会長／熊本大学）から、今後の情報化に向けた話をお聞きすることができて大変に有意義でした。

## 大会2日目

午前は、課題研究発表が3つの会場で行われました。課題研究Ⅰは「テレビの歩みと教育」のテーマで5件の発表がありました。コーディネーターの稲垣忠先生（東北学院大学）、ありがとうございました。課題研究Ⅱは「幼児教育とメディア」のテーマで3件の発表がありました。コーディネーターの堀田博史先生（園田学園女子大学）、ありがとうございました。課題研究Ⅲは「情報活用能力の育成と評価」のテーマで5件の発表がありました。コーディネーターの後藤康志先生（新潟大学）、ありがとうございました。

午後最初のプログラムは、大会2日目の一般研究発表が5会場で行われました。発表件数は30件でした。なお、発表いただいた方においては1日目と同様に質疑を含め15分間という持ち時間にご協力をいただきまして、まことにありがとうございました。分科会の運営をいただいた座長の方にもお礼を申し上げます。

大会最後のプログラムは、シンポジウムⅡ『学習者用デジタル教科書の現状と展望』が行われました。ご登壇いただいた東原義訓先生（信州大学）、森下耕治部長（光村図書出版企画開発本部）、川井勝弘先生（金沢市立花園小学校）、平瀬方識先生（石川県立金沢錦丘高校）から、それぞれのお立場でテーマに迫る話をお聞きすることができて大変に有意義でした。コーディネーターの黒上晴夫先生（関西大学）、ありがとうございました。

終わりにになりましたが、大会期間中、受付、昼食、懇親会、発表時間などに関して、いくつも不手際があったと振り返っています。大会実行委員長として心よりお詫びいたします。

そのような中、参加者の方々からご支援とご協力をいただいたおかげで、滞りなく大会日程を終えられたことに改めて心より感謝申し上げます。

日本教育メディア学会の今後ますますの発展を祈念しながら、次期年次大会実行委員長の小笠原喜康先生（日本大学）にバトンをお渡ししたいと思います。

## 第 1 回研究会の報告

2014 年度第 1 回研究会が、長崎県立大学 佐世保校にて 2014 年 7 月 13 日（日）に開催されました。本州最西端にある本校まで足を運んでいただいた会員以外も含めた大学教員や学校教師、学生の参加のもと、合計で 6 件の研究発表が行われました。

今回の研究会のテーマは「人・学校・周辺環境を結ぶ ICT 活用の教育実践／一般」でした。これは近年、小学校から大学までのすべての教育機関において、学校教育に加え、産学官協同の実践的研究・協働活動、地域コミュニティの活性化などの社会貢献活動、社会や会社で即戦力となる実践的教育活動といった多種多様な実践が広がっていることから設定したものです。

このようなテーマの元、地域課題を題材とした PBL 活動のデザインや実践事例に関する発表として、地域の課題を解決する協働活動のグループディスカッションや情報発信の場を SNS 上に設け SNS を学生が能動的に学べる教育ツールとして活用した研究や地域課題を解決する PBL 活動の設計とポートフォリオ活用の実践の研究がありました。また、様々な社会問題を解決するための研修・授業・教材の開発に関する発表として、ICT 活用の中でも不足しがちな情報モラルや漏洩問題に対応する教員研修の実践、マスメディアについての批判的思考力を育てる教材の開発といったものがありました。さらに学校での教育方法や教育デザインの活用方法や活用実践を支える研究の発表として、思考過程を可視化するシンキングツールを小学校で活用した実践、インストラクショナルデザインの情報提供形態の現状分析と今後の発展の発表がありました。

すべての発表の終了後には全体リフレクションとして、発表者も含む会場の参加者とともに、今回の発表を振り返りとして感想や意見などをいただきながら、時代とともに広がっている教育課題について議論しました。協働活動の評価の方法をより明確にしていくことや、ICT の活用方法の今後に関する意見などがありました。

全体を通して、ICT 活用を基本としながらも、初等教育～社会人教育と対象も幅広く、取り扱う教育内容や目的も様々でありましたが、リフレクションの時間には多岐にわたる視点からの活発な発言をいただき、刺激的で充実した時間となりました。本研究会にご参加いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

長崎県立大学 井ノ上憲司



---

## 企画委員会ワークショップの報告

---

「解明：デジタル教科書の現状と展望」というテーマで9月27日(土) 午後に内田洋行東京ユビキタス協創広場 CANVAS (東京・八丁堀) にて企画委員会ワークショップが行われた。特に、現在開発や普及が進んでいるタブレット端末等で使う学習者用デジタル教科書を話題の中心におきながら進められた。冒頭、中川から趣旨説明で当面検討すべきこととして、①学習者用デジタル教科書は指導者用デジタル教科書とどちらがうのか、②どのような導入パターンで使うのか、③授業支援ツールや授業記録データなど、ICT 環境はどこまで活用可能か、④デジタル教科書の標準化は使いやすさを追究できるのか、⑤家庭学習との連携をどう視野に入れるか、をあげた。

その後、立場のちがう三氏の講演があった。

白水始氏は、「指導と評価のハブとしてのデジタル教科書～研究者の立場から～」というテーマで講演した。ハブに教科書がなるということは、「クラスの中で教科書を指導のための教材として使うと同時に、子どもが回答を書き込むことで評価のデータとしても使えること」「教室や学校を超えて、その指導と評価の結果を共有するために使えることであること」の2つであり、「それが指導場面をより評価の場面として機能させ、評価場面を指導場面として機能させることを可能になる」とし、指導と評価の一体化を進めることになることを示した。また、協調的な学習でも、児童生徒が少しずつ違うことを並列的に学ぶ授業と、同じことを順列的に学ぶ授業とで、効果にどのような違いがあるのかについて報告があった。

片山敏郎氏は、「デジタル教科書と情報リテラシー～実践者の立場から～」というテーマで講演した。今後目指す学力との関係の中で、学習者用デジタル教科書と育成すべき「資質・能力の関係」を考えていく必要があることを主張した。新潟大学教育学部附属新潟小学校では、「附属新潟式情報リテラシー」という独自の能力を定義付けて研究を進めていて、その位置付けと研究の進捗状況について、これから必要と思われる能力育成と関係付けて説明があった。特に、本校では、教科等を横断する汎用的なスキルを、「考えるすべ」という比較・系列化・分類・関係付けという4つの「思考の方法」に落とし込んでいることが報告された。

森下耕治氏は、「国語デジタル教科書のこれまでとこれから～開発者の立場から～」というテーマで講演した。まず、指導者用デジタル教科書が普及した要因として、「スタイルを変えずにわかりやすい授業を展開することができること」「学習意欲、集中力、指示理解などが向上すること」「電子黒板との併用による効果」「学力向上への期待」をあげた。また、「学びのイノベーション事業 実証研究報告書(文部科学省)」で指摘されている内容をあげながら、教科書に加えノートの機能の重要性を示唆していたことを指摘した。児童生徒に対し、学習内容をインプットする装置だけではなく、理解したことや考えたことを表現(アウトプット)したものを記録できる装置として期待されている、とした。さらに、学習者用デジタル教科書は児童生徒が操作して使う教材であることを指摘した。その教材がさまざまなニーズに対応するためには、それぞれの児童生徒がデジタル教科書をカスタマイズして「私の教科書」を作ることが重要とした。

最後に、堀田博史氏のコーディネートにより「再考：デジタル教科書の現状と展望」というテーマでパネルディスカッションが行われた。講演された三氏に加え、前田康裕氏は、「指導者用デジタル教科書

に関する現場の使用状況と教職員研修の実際」というテーマで、「指導者用デジタル教科書の使用頻度・利点」「ハードウェア環境の整備とデジタル教科書の活用」「研修の組み立て方」などについて提案があった。堀田氏から、今後のデジタル教科書に期待することへと話題がふられ、年次大会へのつながりを示した。

本テーマ、特に学習者用デジタル教科書に関しては、多くの学校での活用はこれからであるため、今後に向けての多くの示唆にとんだワークショップとなった。

放送大学 中川一史

---

## 編集委員会からのお知らせ

---

編集委員会委員長 久保田 賢一

### ■教育メディア研究 (Vol. 22, No. 1) 投稿論文募集

〆切：2015年1月30日

### ■特集号「教員養成・現職研修におけるメディア活用」(予定) (Vol. 22, No. 2) 募集のお知らせ

日本教育メディア学会では、22号2巻で「教員養成・現職研修におけるメディア活用(予定)」の特集論文を組みます。

特集号においても一般論文を受け付けていますのでふるって投稿をお願いします。

〆切：2015年7月30日

---

## 編集委員会・企画委員会の合同ワークショップのお知らせ(最終報)

---

編集委員会委員長 久保田 賢一・企画委員会委員長 中川一史

編集委員会担当 小柳和喜雄・企画委員会担当 寺嶋浩介

### 「教員養成・現職研修におけるメディア活用」

2015年7月30日投稿締め切りの「教育メディア研究」22巻2号において、特集号「教員養成・現職研修におけるメディア活用」を予定しています。

本特集号テーマと関わって、2015年2月7日(土) 13:00から、学会の編集委員会・企画委員会の合同企画によるワークショップを開催いたします。本ワークショップにご参加いただき、投稿へのひとつのステップとしてください。また、こうしたテーマについて、情報収集をしたい方、議論の輪に加わりたい方も歓迎します。

<開催場所>

奈良教育大学 R13 棟（教職大学院棟）

大学までのアクセス <http://www.nara-edu.ac.jp/access/>

大学内のアクセス [http://www.nara-edu.ac.jp/campus\\_map/](http://www.nara-edu.ac.jp/campus_map/)

<当日のスケジュール>

12:30 受付開始

13:00 挨拶

13:10 本ワークショップの主旨説明

（小柳和喜雄（奈良教育大学），寺嶋浩介（長崎大学））

13:20 関連研究に関する話題の提供

加藤由香里（東京農工大学）

前田康裕（熊本市教育センター）

後藤康志（新潟大学）

14:40 休憩

15:00 グループワーク

コーディネータ：今野貴之（明星大学），寺嶋浩介（長崎大学）

※グループにわけ，特集号テーマについて，自身が進めている（あるいは，進めたい）

研究を紹介（レジюмеを持参）し，グループで議論します。

A4・1枚程度のレジюмеに概要をまとめ，10枚印刷し，持参してください。

16:30 論文投稿にあたっての注意点（編集委員）

16:50 挨拶

17:00 終了

※ 17:30 ごろから近隣で懇親会を予定しております（会費は4000円程度）。

<申し込み>以下のサイトから申込可能です。

<http://kokucheese.com/event/index/236325/>

---

## 第 2 回研究会のお知らせと発表の募集

---

研究委員会 国内研究会担当 委員長 浅井和行  
第 2 回研究会 会場担当 梅田恭子

### 研究会テーマ「ICT を活用した教育を促進するための支援・教育実践/一般」

近年、文部科学省や総務省によって教育の情報化に関する取り組みが進められています。特に、ICT を活用した教育を促進するためのハード面・ソフト面からの整備が進められています。ハード面では、先進的な市町村、学校での試行的な利用を経て、全国の小中学校に電子黒板やタブレットが普及しつつあります。一方、ソフト面では、教員の ICT 活用指導力向上のための研修カリキュラムの開発 や各自自治体の教育センターなどによる研修が進められています。しかし、ICT を活用した教育の推進を阻害する要因がハード面・ソフト面ともに存在し、それらをどのように解決すべきかが課題となっています。

そこで今回は、ICT を活用した教育に関わる支援システムや実践等を広く募集し、議論できる機会としたいと思います。また、このテーマに限らず広く本学会の研究分野に関わる発表も歓迎いたします。

■ 日時 2015 年 2 月 21 日（土曜日）午後 1 時から 4 時（予定）

■ 場所 愛知教育大学 教育未来館 3F 多目的ホール

住所：愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

<http://www.aichi-edu.ac.jp/access/index.html>

名古屋駅～名鉄知立駅（名鉄名古屋本線 特急 20 分）

名鉄知立駅～愛知教育大前（名鉄バス 20 分）

■ 主催 日本教育メディア学会

■ 参加費 資料代 1,000 円

■ 発表申し込み締め切り日：1 月 10 日（土曜日）

■ 原稿送付締め切り日：1 月 31 日（土曜日）締め切り厳守

■ 発表申し込み方法

1 月 10 日までに、氏名、所属、連絡先のメールアドレス等を入力して、下記の Web フォーム <http://goo.gl/forms/db8PspcFkm> からお申し込みください。

日本教育メディア学会会員でなくとも発表できます。

■ 原稿執筆要綱：原稿は論文集にまとめます。

ワード形式 pdf 形式の原稿をメールで送付してください。

B5 版 1 行 20 字×40 行×2 段組枚数は 4 枚以上の偶数枚。余白は、左右・上下=23mm

字体は明朝体 9 ポイント和文と英文の表題・名前・所属、要約、キーワード  
(5 個以内)

■ 懇親会のお知らせ

研究会終了後、簡単な懇親会を予定しております。参加費用約 5,000 円の予定です。

■ 参加申し込み

2 月 21 日（土曜日）の研究会に参加される方は、以下の Web フォーム

<http://goo.gl/forms/db8PspcFkm> から お申込みください。

---

## 第 7 期 第 13 回理事会（定例）議事録

---

1. 日時 2014 年 10 月 10 日（金）15:00-17:00
2. 場所 金沢星稜大学 本館 1 階 第 3 会議室
3. 出席者 会長、理事 16 名（委任状 9 名）、監事 1 名
4. 協議事項

◎総務関係

- （1）入会者・退会者の承認について（審議）

新規入会者・退会者について資料に基づき説明され、承認された。

- （2）選挙について（審議）

従来通りの方法で選挙を行うことが、承認された。

- （3）会員名簿について（審議）

会員相互の交流を促進させるために、会員名簿をパスワード付き PDF で作成し、メーリングリストで会員に配布することが、承認された。

- （4）総会資料について（報告）

総会資料について確認がなされた。

◎編集委員会

【国内】

- （1）論文誌発行の進捗状況（報告）

『教育メディア研究』21 巻 1 号、21 巻 2 号の編集に関する進捗状況が報告された。

【国際】

- （1）本年度の論文誌と今後について（報告）

ICoME ジャーナル第 8 号が ICoME2014 会場において配布され、Web サイトにも公開されたことが報告された。論文投稿数を増やす工夫について意見交換がなされた。

(2) ICoME ジャーナルの冊子作成について (審議)

ICoME ジャーナルは、将来的に印刷物の冊子を作らず Web 公開のみとする方針で進めることが承認された。

◎研究委員会

【国内】

(1) 本年度開催された研究会の報告と次年度計画について (報告)

すでに開催された第1回研究会の報告と開催される予定の第2回研究会の計画が報告された。

【国際】

(1) 本年度開催された研究会の報告と次年度計画について (報告)

本年度開催された ICoME2014 についての報告と次年度中国で開催される ICoME2015 の計画が報告された。

(2) 日本教育工学会との連携について (審議)

ICoME2016 (日本開催) の開催にあたり、日本教育工学会との連携可能性を検討することが審議され、承認された。

◎年次大会委員会

(1) 本年度開催に関する報告 (報告)

今年度の年次大会準備状況が報告された。

(2) 次年度の計画について (審議)

次年度の年次大会を 2015 年 10 月 17 日・18 日に日本大学で開催する計画が提案され、承認された。発表 1 件あたりの時間について、4 月の理事会に年次大会委員会から原案を提出して審議することが確認された。次年度から年次大会論文集は基本的にデジタルデータで Web 配信することとし、印刷物が欲しい人には有料で手に入るように準備するという方針で検討することが承認された。

◎広報委員会

(1) 本年度前期までの活動報告 (報告)

学会 Web による情報発信を行ってきたこと、学会通信 68 号と 69 号を発行したことが報告された。

(2) 学会通信台割案 (70 号から 71 号まで) (審議)

学会通信 70 号と 71 号の台割案が提案され、承認された。

◎企画委員会

(1) 本年度開催に関する報告と次年度計画について (報告)

本年度、すでに開催された企画委員会企画ワークショップと開催される予定の企画委員会・編集委員会合同企画ワークショップの計画が報告された。

◎井内賞選考委員会

(1) 井内賞の選考経過と受賞者について (報告)

井内賞の選考経過と受賞者について報告がなされた。

以上

日本教育メディア学会 事務局長（第7期）

中橋 雄（武蔵大学）

---

## 定例総会議事録

---

1. 日時 2014年10月11日（土）12:30-13:10
2. 会場 金沢星稜大学 キャリア館 5F C51, 52教室
3. 内容

議事に先立ち、議長から、有効な委任状が32通事務局に届き、出席者が40名のため、学会会則第44条に従って2014年度定例総会が成立していることが報告された。

### （1）議案

第1号議案（2013年度事業報告及び収支決算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から2013年度事業経過及び結果（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2013、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があり、また、監事から通帳、会計書類等適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2013年度収支決算（案）が異議無く承認された。

第2号議案（2014年度事業計画及び収支予算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から2014年度事業計画（機関誌発行、年次大会の開催、学术交流等：研究会、ICoME2014、ワークショップの開催等）についてそれぞれ説明があり、審議の結果、2014年度収支予算（案）が異議無く承認された。

### （2）報告事項

①表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果報告

担当委員より「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

- ・受賞者名：岸磨貴子・大谷つかさ
- ・論文名：ICTを活用した経験学習を促す学習環境の要件

－日本語教員養成の事例から－

- ・掲載論文誌：教育メディア研究 第20巻第2号（2014年3月）

②『教育メディア研究』特集論文・一般論文の募集の件

『教育メディア研究』第22巻2号で、特集論文を募集するという案内があった。

③2015年度年次大会の件

次年度の年次大会を2015年10月17日・18日に日本大学で開催することが報告された。

④ICoME2015の件

ICoME2015は、中国にて、2015年8月中旬に開催されることが報告された。

## 第1号議案

### 2013年度 収支決算（自2013.4.1～至2014.3.31）

#### 1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,080,700	3,080,700	0	2012年度から繰り入れ
正会員会費	1,575,000	1,631,000	56,000	234名分
学生会員会費	88,000	76,000	▲ 12,000	19名分
団体会員会費	300,000	250,000	▲ 50,000	5団体分
購読会員会費	70,000	42,000	▲ 28,000	6会員分
過年度正会員会費	322,000	446,000	124,000	のべ64名分（2010年度に2000円入金済みの会員が含まれている）
過年度学生会員会費	20,000	8,000	▲ 12,000	のべ2名分
過年度団体会員会費	0	0	0	
過年度購読会員会費	0	0	0	
入会金	30,000	64,000	34,000	32名分
雑収入	100,000	185,108	85,108	別刷り印刷 154,000円，論文誌販売 25,350円，利子 1,108円，その他 5,000円
計	5,585,700	5,782,808	197,108	

#### 2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	300,000	168,090	▲ 131,910	学会誌・別刷送料
消耗品	100,000	80,509	▲ 19,491	消耗品費
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	1,200,000	844,015	▲ 355,985	学会誌 19(2)，20(1)，別刷・製本 ※ 20(2)は2014年度に会計処理
会議費	100,000	11,853	▲ 88,147	弁当・お茶代（11,853円）
国際会議開催補助費	350,000	▲ 139,860	▲ 489,860	助成金、協賛金、参加費による黒字
借損料	50,000	0	▲ 50,000	会議室を無料で借りることができたため
旅費	200,000	190,560	▲ 9,440	
諸謝金	500,000	480,000	▲ 20,000	
年次大会委託費	400,000	▲ 9,009	▲ 409,009	協賛金、参加費による黒字
研究会委託費	200,000	96,065	▲ 103,935	
企画委員会委託費	200,000	96,669	▲ 103,331	
雑費	60,000	44,550	▲ 15,450	振込手数料（4,830円），オンライン口座管理費（9,450円），ホスティングサーバー料金（23,760円），DNS料金（7,560円）
予備費	1,925,700	105,000	▲ 1,820,700	弁護士料（75,000円），ロゴマークブラッシュアップ料（31,500円）

次年度繰越金	0	3,814,366	3,814,366	2014年に繰り越し
計	5,585,700	5,782,808	197,108	

## 第2号議案

### 2014年度予算（自2014.4.1～至2015.3.31）案

#### 1. 収入の部

収入項目	前年度決算	予算額	備考
繰越金	3,080,700	3,814,366	2013年度から繰り入れ
正会員会費	1,631,000	1,659,000	7,000円×237名（納入率70%）
学生会員会費	76,000	104,000	4,000円×26名分（納入率70%）
団体会員会費	250,000	300,000	6団体
購読会員会費	42,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	446,000	308,000	7,000円×44名分（未納者の40%）
過年度学生会員会費	8,000	24,000	4,000円×6名分（未納者の40%）
過年度団体会員会費	0	50,000	1団体
過年度購読会員会費	0	28,000	4会員
入会金	64,000	30,000	15名分
雑収入	185,108	100,000	別刷り印刷、印税、雑誌販売
計	5,782,808	6,487,366	

#### 2. 支出の部

支出項目	前年度決算	予算額	備考
通信運搬	168,090	300,000	学会誌・別刷郵送費
消耗品	80,509	100,000	消耗品費
設備・什器	0	0	
印刷製本	844,015	1,200,000	教育メディア研究20(2)・21(1)・21(2), 封筒, 別刷
会議費	11,853	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	▲139,860	350,000	ICOME2014開催補助費（2014年度分）
借損料	0	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	190,560	200,000	監査に係る旅費, 事務員旅費
諸謝金	480,000	500,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	▲9,009	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	96,065	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	96,669	200,000	企画委員会委託費
雑費	44,550	60,000	振込手数料, ホスティングサーバー料金(23,760円), DNS料金(7,560円)
予備費	105,000	2,827,366	
次年度繰越金	3,814,366	0	
計	5,782,808	6,487,366	

## ◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2014年度（2014年4月1日から2015年3月31日）の年会費（正会員7,000円、学生会員4,000円）が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨソイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生（社会人学生を除く）です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください（スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます）。

## ◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要お知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくお願いいたします。

### 【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員（2名）・・・菊地 寛、野田 真菜

退会者・正会員（11名）・・・鈴木 浩、原子 文子、鈴木 彰、上山 輝、北條 礼子、松本 早野香、中村 泰之、ア-ロン エリ ミケアラヤ、佐野 博彦、佐賀 啓男、小山義徳

退会者・学生会員（1名）・・・今泉 智子

種別変更：学生会員→正会員（2名）・・・泰山 裕、寺岡 裕城

会員総数 383名・16団体

名誉会員：3名

正会員：343名

学生会員：37名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

(2014年11月30日現在)

**日本教育メディア学会 事務局**

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1  
武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内  
電話：03-5984-4792 E-mail：[office@jaems.jp](mailto:office@jaems.jp)  
学会ホームページ URL：<http://jaems.jp/>

**広報委員会**

委員長 小柳和喜雄（奈良教育大学）  
副委員長 永田智子（兵庫教育大学）  
副委員長 村上正行（京都外国語大学）

